

Welfare

[ウェルフェア]

2013

51

「チャレンジ!! 介護福祉士」改訂 第25回過去問題解説集 新設

CONTENTS

P2 「空飛ぶ車いす」2013年活動レポート

空飛ぶ車いす、海を渡る! —スリランカ報告—

P4 くっきり! 福祉の未来形 ~日社済助成事業報告集~

「だれでも、自由に、どこへでも」その20年の活動記録の再編およびその考察
もっと優しい旅への勉強会

P6 平成26年度 社会福祉助成事業実施要綱

P7 チャレンジ!! 介護福祉士

教材追加

P10 「空飛ぶ車いす」2013年活動レポート

空飛ぶ車いす、今年も東北へ行く!

P14 「空飛ぶ車いす」がウオッチング・ニュースに掲載されました。

P15 福祉の共済コーナー

空飛ぶ車いす、海を渡る！

―スリランカ報告―

理事 遠藤 秀樹

スリランカは2004年(平成16年)12月26日に発生した「インド洋大津波」により壊滅的な被害を受けました。当時、児童養護施設「少年の家」の施設長アーリヤ・ダーサ氏(25年前に全社協の第4期研修生として、1年間日本の施設で勉強)から、津波被災地への車いす支援の要請があり、これを受けて、全国の工業高校生たちが修理した中古の車いす129台が、翌年5月に贈られました。以後、毎年200台以上の車いすがコンテナ船で海を渡り、被災者だけではなく多くの障害者の方々に届けられております。

7月に平方俊雄評議員、居関剛一監事がスリランカを訪問しましたので、そのご報告を致します。

車いす贈呈式

スリランカ政府の信託下にある「リッチモンド・カースル」で、社会福祉大臣、仏教大僧正、キリスト教神父、カルタラ市幹部、及び平方俊雄評議員を代表とする本会訪問団を来賓として「式典」が開催されました。子供たちによる歓迎(日本の踊り、スリランカの踊りの披露)、両国出席者のスピーチの後、身障者とその同伴家族ひとり一人に日本から送られた車いす58台が贈呈され、受贈者の中には、感激のあまり号泣する方々もいて大変感動致しました。

車いすの自宅へのお届け

翌日はカルタラ市まで来られない方々の自宅を6カ所訪問して、15台の車いすをお届けしました。

①カルタラ市から2時間ほどの民家で老女性に贈呈(1台)



政府要人：セネビ氏と本会評議員：平方俊雄



社会福祉大臣、仏教大僧正、キリスト教神父、カルタラ市幹部他と中庭で記念撮影

② ジャエラ地区施設集会場では近隣の障害者と家族が集合（6台贈呈）——どの方も初めて車いすを手にして、感涙にむせぶ障害者とその家族から丁寧な御礼の言葉があった。



ジャエラ地区集会場

③ ミリイガマ市の木から落ちて、下半身不随の男性に贈呈（1台）



ミリイガマ市内の男性

④ ミリイガマ市内の施設集会場にて近隣の障害者と家族が集合（5台贈呈）——どの方も初めて車いすを手にしたとのことであり、丁寧な御礼を受けた。

⑤ ミリイガマ市内のお店にて、手足の全く不自由な男性に贈呈（1台）——口で器用に絵をかき姿が印象的

⑥ ミリイガマ市の神経麻痺の盲目の女の子に贈呈（1台）——きれいな車いすを贈呈したが、盲目の上、背中が曲がらない状態なので車いすに上手に座することもできず、泣き叫ぶ状態であった。家族からは大変感謝されたが、最後に車いす自体の調整・再配布が必要なケースに遭遇するなど貴重な体験であった。



ミリイガマ市内の少女

アリア・ダーサ氏インタビュー

新品の車いすは一部の富裕層しか手に入りません。新品を購入すると1台3万円程度かかってしまいます。平均的なスリランカの公務員の月収は2万円程度です。

一方、障害者を抱える家族の収入は一般的に低く、ほとんどが車いすを購入できません。

当然のことながら、身障者は一切外出ができません。日本と違って一般の家庭にはクローラーはなく、1日中蒸し暑い屋内で過ごすしかありません。また屋内も必ずしも清潔とは言えず、障害者のストレスはたまるし、面倒をみる家族の負担も甚大です。

また田舎では、一般的にトイレは屋外にあり、身障者は大変な不自由をしており家族の負担も大きいです。失禁も多く、衛生面で大きな問題になっています。車いすが手に入ると、家族の介助は必要ですが外出もでき、ストレス解消にもなり、家族の負担も大いに軽減されるので皆感激しています。



浴衣姿での歓迎

●事業成果報告集

「だれでも、自由に、よく、でも」

その20年の活動記録の再編およびその考察

もっと優しい旅への勉強会 東京都世田谷区

事務局 吉田 岳史

旅行業界や福祉関係者、
旅行ユーザーが集結して
90年代に設立

「もっと優しい旅への勉強会」(以下、本会)は、障害のある人や高齢の人等を含めた「すべての人」を対象とし、誰もが快適に旅を楽しめる環境づくりをめざすために1991年に設立された、会員制の任意団体である。「パリアフリー旅行」や「ユニバーサルツーリズム」といった言葉も概念も普及していなかった当時、自由に旅を楽しみたいと願う障害のある人たちが旅行会社の社員が集まり、互いの情報交換とその発信を始めていったのがきっかけとなり、その後同じ目的や悩みを持つ人たちが集まってきたことで、会員制の団体として本格的な活動につながっていく。活動内容は情報収集と提供、人脈の構築・研究・

啓発活動・イベント主催・書籍出版など多岐にわたるが、もっとも特徴的なものは、設立以来続けてきた「月1回の定例会(勉強会)」と、その報告や案内等を掲載した月刊の会報発行である。

「定例会の記録」の積み上げが
貴重な史料に

こうして本会は、これまでに200回以上の定例会を実施し、述べ2000ページを超える会報発行を20年以上継続的に実施してきたが、加えて、本会から旅行や福祉業界に就職した学生や、第一線で活躍する人材を数多く輩出してきたことに対し近年大きな評価を受けている。特に定例会のテーマや報告を記録している会報は、この分野において他に類を見ない貴重な史料として期待されている。

しかし、本会の運営は会員有志によるボランティアが都度行ってきたこともあり、期待にこたえる史料としては、その情報量に即した整理に乏しい。こうしたなかで日社済の社会福祉助成事業を知り、活用させていただくこととした。

事業成果
さまざまなか見

過去の定例会を再考していく過程で、本会がそれぞれの時代において的確な問題提起を行っていたことに対し、その先駆性をあらためて認識した。また、多岐にわたるテーマに加え、スタイルについても多様であり、講義・ディスカッション・フリートーク、さらには視察旅行の実施など、様々な形態で社会に対し問題を先駆けて提言してきたことも再認識した。

このような本会活動の原点ともいえる事項を踏まえ、過去20数年の整理・再考を行った。具体的には、これらの多様性について、そのこと自体をこの20数年の大きな特徴として位置づけ、時代背景との照合および変遷という視点を加えた。すなわち、前半である1990年代を「だれでも、自由に、どこへでも」の「黎明期／構築期」とし、後半である2000年代から現在までを「発展期」として大分類、さらに今後の研究などにおいて焦点を当てやすいよう、4～5年サイクルによる中分類を行った。中分類の各サイクルにおいては、時代状況と定例会内容との双方を概観、関連する社会動向をピックアップし、そこに定例会の内容を時系列に合わせて解説・考察を入れた。このことにより、時代背景と当時の定例会テーマとの密接性を把握できるような整理ができたうえ、さらには関係者の念願でもあった、この分野におけるひとつの歴史的体系が確立されたといえる。本事業の成果は、1991年から今月まで、時として大きな壁にぶつかりながらも設立当時から理念を体現するという意志をもち続け、無償ボランティアにより紡がれた地道な活動の軌跡に対し、ともすれば淡々とした事実の羅列にとどまりかねない記録群を、この分野にかかわっている関係者の期待に応えうる、公益性の高い資料（史料）としてまとめあげたという点で非常に大きな成果があった。

一方で課題として、諸事情により過去の会報の一部が入手できなかったりするなど、基

礎資料となる情報収集において充分とは言えないところがあった。この点については、将来の課題として、少しずつ穴埋めをしていきたい。

今後の展開

本会には、旅行をする際に何らかの不由がある人をはじめ、旅行業界や福祉業界関係者、主婦、学生など、さまざまな分野の人たちからの問い合わせや相談が多いが、その中で常を感じるのは、この分野に従事したいという学生や研究者にとって、そのための基礎となるソースや人的ネットワークに未だ乏しいということである。会の内外を問わず、将来の担い手となる人たちに對し、これまでの歴史・背景、克服してきた課題を示す羅針盤のような役割を果たしていくことは、20数年の歴史を重ねてきた本会の次なる活動の基盤づくりにつながるだけでなく、新たなネットワークの構築、新たなテーマの探求などにおいても相乗的な効果が期待できる。本事業をきっかけに、事例と考察を積み上げる仕組みは確立されたと言え、その継続による効果も十分に期待される。これは一部の関係者や旅行者のみならず、業界や地域社会にとっても有用なことであると考える。

「だれでも、自由に、どこへでも」という本会の設立以来のスローガンは、今なお色あせることのないものであり、むしろ「ユニバーサル・ツーリズム」などに代表される昨今の

概念の原点とも考えられる。すべての人が旅の楽しさを享受できる社会の実現は、成熟した社会のありようにもかかわるものであり、このことを唱え続けることが本会の役割と考



20年以上続けている「毎月の定例会」のようす

平成26年度 社会福祉助成事業実施要綱

■主旨

少子高齢化が進展するなかで、社会福祉制度の充実と福祉サービスの多様化が求められています。そして福祉サービスの提供にあたっては、利用者との対等な関係の確立やサービスの質の向上などが課題となっており、利用者のニーズに合った支援の充実を図るためには、支援業務に携わる方々の役割が重要性を増しています。

本会の助成事業は、そうした増大、多様化する福祉需要のなかで、社会福祉関係者の専門性向上などを目指した「研修事業」や「研究事業」、また地域社会で草の根的に取り組んでいる“先駆的事业”に一部助成することにより、豊かな福祉社会の実現に寄与することを目的とします。

■助成対象事業／助成内容

1. 社会福祉関係者の資質向上に関する研修や研究（下記(A)～(D)の対象事業から1つ選択してください。)
2. 社会福祉事業でそのテーマや内容に先駆的要素またはパイロット性があるもの
3. 事業の目的が明確で、実施後の具体的な成果が充分期待できるもの

		対象事業	対象経費	助成額
研修事業	(A)集合研修	福祉サービスのあり方や専門的知識、技能の習得などをテーマとして開催される集合研修事業（研修会、セミナー、講演会など）	講師謝金・交通費 宿泊費・会場費 報告書作成費	助成対象 経費合計の 80%以内 かつ50万円 以内
	(B)派遣研修	福祉施設職員などが幅広い視野と専門性を持って支援業務に携わるために、他の福祉施設、団体などで一定期間実習する派遣研修事業	交通費 宿泊費 報告書作成費	
研究事業	(C)実践研究	各福祉分野の先駆性ある事業の実践を通して行われる成果、課題のまとめなどの実践研究事業	実践研究事業費 調査経費 報告書作成費	
	(D)調査研究	社会福祉関係者の専門性の向上、現任訓練の方法や体系、また就労、福利厚生などをテーマとする調査研究事業	調査経費 謝金・原稿料 報告書作成費	

※助成対象経費の20%とそれ以外の経費は、申請団体負担です。

■助成金総額／事業実施期間

助成金総額／2,000万円以内

事業実施期間／平成26年4月から平成27年3月末までに実施される事業を対象とします。

申請期間／平成25年11月1日(金)から平成25年12月13日(金)消印有効

※申請条件、申請方法等の詳細はホームページをご覧ください。

「チャレンジ!! 介護福祉士」教材追加

日社済は働きながら資格を取得するあなたを応援します。

我が国は、急激な少子高齢化社会の進展の影響で高齢者が増え、介護を求める声が高くなってきています。それは、今後さらに増えることが予想されます。このような社会において「介護福祉士」の存在は、身近なものとなってきました。現在は介護施設などで多く求められていますが、これからは一家に一人その資格を必要とする時が来るのではないのでしょうか。今後、「介護福祉士」の需要はどんどん多くなっていくことと思われます。

日社済は、「介護福祉士」資格取得支援のため、県社協と連携して種々の施策を実施しておりますがその一つにチャレンジ（模擬問題セット）の提供があります。チャレンジは、働きながら「介護福祉士」の国家試験合格を目指す方々を対

象とした受験者の学習支援と経済的負担の軽減を図ることを目的として作成された教材です。今回は社協からの要望も踏まえ、これまでの模擬試験と解説セット

（3回分）に新たに直近の過去問題解説集（平成25年1月実施分）を追加しました。非常にわかりやすい解説となっています。当会の教材を活用されて一人でも多くの「介護福祉士」が誕生されることを祈念しております。

公益財団法人

日本社会福祉弘済会



追加された教材
第25回 過去問題解説集

「チャレンジ!!」教材申込書2014

当会ホームページからダウンロード出来ます。

<http://www.nisshasai.jp>

ホームページ左下の
バナーをクリック!



■問い合わせ先

公益財団法人 日本社会福祉弘済会

〒130-0022 東京都墨田区江東橋4-24-3

TEL. 03-3846-2172

FAX. 03-3846-2185

介護福祉士 Challenge 2014

みんなで合格!

CHALLENGE THE CARE WORKER

模擬問題と解説セット 3 回分

※第25回過去問題解説集付

チャレンジ!!は、本試験と同様形式です。

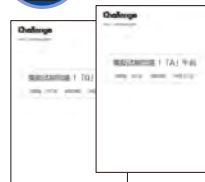
本試験のイメージトレーニングを積みながら学習効率アップをはかってください。

教材 1 国家試験出題基準



国家試験問題を作成するために用いる出題基準をまとめています。

教材 2 模擬問題集・マークシート

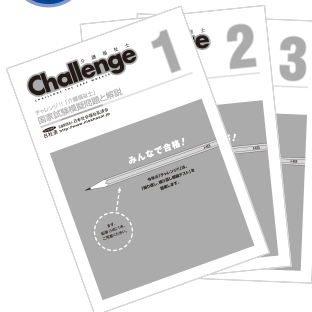


120問の「筆記試験」は、午前(領域:人間と社会、介護)と午後(領域:こころとからだのしくみ、総合問題)に行われます。

本試験の解答方法は五肢択一で、鉛筆(HB)で正答の番号を黒く塗りつぶす方式です。塗りつぶしを正確にしないと、正答でも採点漏れになります。とにかく慣れが肝心。



教材 3 模擬問題と解説



120問と正答がわかりやすい解説と一緒に掲載されています。自己学習は当参考書でOK。自己採点や繰り返し学習に最適です。

教材 4 第25回過去問題解説集



第25回国家試験問題についてポイントを押さえたわかりやすい解説をしています。

チャレンジ!!は働きながら国家資格に挑戦するあなたを応援します!

申込方法

申込書に必要事項ご記入のうえ、郵送またはFAXにてお申し込みください。

●**支払**: 代金は申込書送付と同時に下記口座にお振込ください。
郵便局振替口座: 記号 00100-1 番号 630517
ゆうちょ銀行: 〇一九(ゼロイチキョウ)店(019) 当座 0630517
口座名義: チャレンジ介護福祉士

※(注)送金時の振込人名義は申込書と同一をお願いします。

●**価格**: 4,000円(税、送料込み)

●**発送**: 教材は代金着金確認後速やかに発送します。

社会福祉法人 岩手県社会福祉協議会
社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
社会福祉法人 福島県社会福祉協議会
社会福祉法人 山梨県社会福祉協議会
社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会
社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会
公益財団法人 日本社会福祉弘済会

「チャレンジ!!」教材申込書 2014

FAX 03-3846-2185 「チャレンジ!! 介護福祉士」事務局行

申込日 月 日

申込書に必要事項ご記入のうえ、郵送またはFAXにてお申し込みください。

送付先情報	氏名 (漢字)	[姓]	[名]	
	フリガナ (カタカナ)	[姓]	[名]	
	住所	〒	—	都道府県
		[市区町村、番地]		
		[アパート、マンション、ビル名]		
	[送付先が会社/施設の場合は会社/施設名]			
TEL		FAX		
E-mail				

※上記個人情報は、日本社会福祉弘済会の福祉情報提供のために利用し、責任を持って管理運営いたします。

勤務先情報	勤務先 施設・団体名	
	勤務先種別	<input type="checkbox"/> 福祉施設 (1.老人 2.知的障害 3.身体障害 4.児童 5.その他) <input type="checkbox"/> 在宅サービス <input type="checkbox"/> 社協 <input type="checkbox"/> その他 ()

■ご連絡、ご質問などがありましたらご記入ください。

送金通知	下記金融機関から送金しました。
	●送金日: 月 日 ●送金元: 郵便局()郵便局 :その他金融機関()銀行・信金・農協等()支店

〈照会先〉「チャレンジ!! 介護福祉士」事務局

〒130-0022 東京都墨田区江東橋4-24-3 日本社会福祉弘済会内 TEL03-3846-2172

空飛ぶ車いす、

今年も東北へ行く！

使われなくなった中古車いすを修理して、海外の人たちにプレゼントする活動を続けている「空飛ぶ車いす学校グループ(24都道府県68校)」。東日本大震災の後は被災地の車いす支援にも乗り出し、東北3県に4百台もの車いすを贈ってきました。震災からすでに2年。学校グループは毎年被災地を訪れていますが、今回は5月2日～5日のゴールデンウィークに、女川町役場(宮城県)、気仙苑(岩手県大船渡市)、江島(宮城県女川町)を訪れた神奈川工科大学、新潟医療福祉大学の学生たちのレポートをお届けします。

できることしかできない

新潟医療福祉大学1年生

上村 佳世

自分の目で見る津波の被害は、メディアで見
るものとは大きく違い、かつての暮らしの跡
いまだに山積み瓦礫、壊れたままの家屋を直
接見て圧倒されま

した。しかしな
により圧倒された
は、今まさに復興
しようとしている
皆さんのそのエネ
ルギーです。被災
された方やボラン
ティアの前向きな
話、仮設商店街の
笑顔、そのすべ

るものとは大きく違い、かつての暮らしの跡いまだに山積み瓦礫、壊れたままの家屋を直接見て圧倒されました。しかしなにより圧倒されたのは、今まさに復興しようとしている皆さんのそのエネルギーです。被災された方やボランティアの前向きな話、仮設商店街の笑顔、そのすべ



上村佳世さん

てが、私に足りないものでした。でも私は私の
できることをしようと思ひ直し、まずは目の前
の車いすを一生懸命に修理することだ。修理の
ときお会いしたおばあさんや職員の方の感謝の
言葉は、私にパワーをくれて、自然と笑顔にな
ります。私は車いす修理がだれかの役に立って、
それが結果的に東北の方の支援につながってい
るのだと信じていることができました。

あの津波を忘れない

新潟医療福祉大学1年生

栗栖 亜実

女川病院は丘の上にも関わらず、一階まで波
が来たそうです。病院スタッフは津波警報で患
者さんを2階へ移送しましたが、全員移動する
前に津波がきてしまい、何人かの患者さん、ス
タッフは津波に流されてしまったのです。助かつ



崩れたままの堤防(大船渡市)

た人も流される人をだまってみるのしかかできなかったそうです。丘からは、津波の被災状況が一望できますが、どれだけの人がここで暮らし、何人避難できたのか……。それを思うと胸が痛くなりました。

昼飯を食べた「希望の鐘商店街」では「いらっしやい！」と威勢の良い声が響き渡っています。メニューも価格以上のボリュームと味。少し疲れ気味の私の方が元気をもらいました。焼鳥屋のおばさんから見せてもらったが震災前と後の暮らしのスライドショーからは、あの津波を忘れないでほしいという思いが伝わります。きっと元氣に見える方々もお互いに励まし協力しあって、今を大切に暮らしているのに違いありません。



来栖亜実さん

被災地支援を続けていきたい

新潟医療福祉大学3年生

上口 春菜

2年前にここを訪ねたのは12月で、被災9ヶ月後でした。女川町も大船渡市も倒壊建物や瓦礫がそのまま、寒い中、女川病院から海を見下ろして聞いた話がとても印象的でした。女川町役場の鈴木貴之さんのお話では、住宅は高台移転し、元市街地は5m、10mと段階的に盛土して、観光施設などが建つ予定だそうです。

大船渡市でお世話になった民宿の嘉志一世さんも津波で民宿と自宅、船なども流され、震災直後は、民宿を続けるつもりはなかったそうです。でも常連さんたちに励まされ、もう一度続ける決心をしたとのこと。畑だった高台に独力で少しずつ建てた家が今年やっと完成し、3月から民宿を始めました。たくさんの方々の援助がなければできなかったと嘉志さんは話してくれました。津波で何もなくなった街を見ると、手伝いに来ているつもりなのに私も弱気になります。しかし私たちに「ありがとう」と言ってくれてくれる方がいます。私には車いす修理やゴミ拾いなど、できることが限られています。喜んでくれる方がいる限り、何度でも東北を訪れるつもりです。



上口春菜さん

2つの提案

新潟医療福祉大学4年生

嶋見 優太

被災地へ足を運んだのは3回目。被災地のニーズが大きく代わったと感じます。物的な支援より人的な支援へと。女川町の江島では、私たちに他に2団体が島を訪れていました。足湯ボランティア、そしてアイドルグループです。各々



離島(女川町の江島)でのゴミ拾い



嶋見優太さん(右)

違う活動ですが、島の方とふれあい、1人1人が元気になる活動でした。この活動を見て学んだことがあります。それは自分でできることで現地の人とふれあ

い、被災地を知ろうとする復興に対する前向きな姿勢です。少しずつ被災地から目が遠ざかっている現状は、時折寂しく感じてしまいます。しかし、岩手県のテレビで東北の高校生たちが現地を訪れ、現地の人たちを元気づけていることを私は初めて知りました。被災地へ向かう際に、2つの提案があります。1つは、できることをなるべく多く行い、人との出会いを大切にすること。2つめは、目の当たりとした光景話を自身の経験として、それを人に伝えていくこと。これが私たち学生にできる復興活動だと考えます。

初めて体感した津波被害の恐ろしさ

神奈川工科大学1年生

廣澤 亮介

私は今回初めて被災地の現状を知り、何とも言えない憤りと、ぶつけどころのない心のモヤモヤ、そして自然の恐怖を感じました。女川町

では役場がプレハブ庁舎で、倒れた電柱や倒壊した家そのままになっていることと、プレハブの「希望の鐘商店街」が目を引きました。大船渡市三陸町では中央公民館の倒壊の生々しい現実にショックを受け、民宿のもてなしに心が温まりました。気仙苑では入居者の方々から感謝され嬉しく思う一方で、津波跡の看板や倒壊した堤防から津波の恐ろしさを改めて感じました。

江島ではアイドル「Lady GO!!」が生半可な気持ちで活動しているわけではないと知り、アイドルの見方が変わりました。また区長さんの話を聞き、江島にあつて今の私たちにない自給自足やライフラインの枯渇による危機などとても現実離れしていて、事実は小説より奇なりという言葉しか頭に浮かびませんでした。



廣澤亮介さん

離島のゴミ拾いで感謝されたこと

神奈川工科大学1年生

池田 拓海

印象的だったのが、江島での清掃活動でした。震災被害が深刻で、たくさんの方が家が壊されています。震災の影響で島民は20人しか住んでなく、物静かでした。とにかく若い人がいないのです。島半周を回ってゴミ拾いをしたのですが、ゴミ



女川町役場仮庁舎前の修理



東京のアイドルグループ「Lady Go!!」が女川町の江島を慰問



梅原直人さん(中央)

3度目の被災地訪問でした。まだまだ復興には時間がかかるけれど、少しずつ復興に向かって進んでいるようでした。地元の方は、自分たちで復興していこうという気持ちを強く持っています。たとえば、女川高校グラウンドの「希望の鐘商店街」は多くのお店があり、多くの人で賑わっています。また去年はなかった港が整備され、そこから「シール女川汽船」で江島へ向かいました。江島には20人のお年寄りしか住んでいません。震災で多くの

復興する姿を見続けたい

神奈川工科大学2年生

梅原 直人



池田拓海さん(中央)

がたくさんありました。大したことはないのですが、お年寄りにとってはゴミ拾いも大変な重労働。だから「有り難う」と言葉をいただけただけで、とても嬉しかったです。清掃後は島民の方々と楽しく過ごしました。みなさんすぐく元気です、逆に私たちが力をもらったくらいです。

勇気を教えてもらいました

神奈川工科大学2年生

島野 克弥

住宅が崩壊したのですが、それでもめげずに、皆さん元気に暮らしています。女川町では製水貯水施設も完成し、漁港として一歩一歩、復興に向かっていました。平成30年度を目処に復興を目指す女川町がどんな町並みになるのか楽しみです。私たちがそれを見届けるために、これからも女川町に足を運びたいと考えます。

私は今回「被害の傷跡」と「人の強さ」を実感できました。更地や瓦礫となった建物などがまだまだ存在し、目で見る限り復興はまだまだです。しかしそこに生きる人たちは皆、前を見つめています。その姿から「絶対に負けるものか」という強い意志を感じました。これからは、物資支援の「協力」よりも、東北で行われるイベントへや観光などの「参加」が求められています。私は、これらの活動により積極的に参加していきたいと思いました。

女川高校グラウンドを利用して作られたとても小さな「希望の鐘商店街」の皆さんの威勢の良い姿、気仙苑の職員の方たちのいきいきとした姿、江島で出会った他のボランティアや島民の方たちの笑顔……。みんなとてつもなく強い人たちでした。

日社済ではこれからも空飛ぶ車いす学校グループがおこなう取り組みを支援していきます。学生たちの精力的な活動内容に、ぜひご注目ください。



東日本大震災から3年目の女川町

High School Students Fix Wheelchairs



↑ 車いすを修理する高校生



0046 本文写真提供/日本社会福祉協議会

「空飛ぶ車いす」とは
日本では、年間3万台以上もの車いすが廃棄されると言われています。「空飛ぶ車いす」は、使われなくなった中古の車いすを修理し、海外の人たちに送るといったボランティア活動です。

↑ 車いすを贈られ、学校に行けるようになったベトナムのティちゃん(先頭)

Many people around the world need wheelchairs, but not all of them have one. In some parts of the world, it is not easy to buy wheelchairs because they are expensive.

*This is why a Japanese volunteer group is sending wheelchairs abroad. The group, *Soratobu Kurumaisu*, fixes wheelchairs which are too old or broken and gives them to people who need them. Since 1999, about 6,000 wheelchairs have been fixed and many of them were sent to Asian countries.

In fact, high school students are playing an important role in this movement. Students and volunteers from more than 80 schools and groups are fixing wheelchairs and most of them are technical high school students. Some schools also take wheelchairs to foreign countries and hand them

directly to the people who need them.

This movement has formed strong ties between Japan and other Asian

countries. When the Great East Japan Earthquake hit Japan in 2011, some wheelchair users in Asian countries sent letters to *Soratobu Kurumaisu* because they were concerned about people in Tohoku.

Soratobu Kurumaisu usually sends wheelchairs abroad, but, after the earthquake, they decided to help people in Tohoku, too. They fixed wheelchairs damaged in the tsunami. Fixing damaged wheelchairs was not easy, but the fixed wheelchairs are helping a lot of people's lives now.



↑ 東日本大震災後、被災地に届けた車いす (宮城県支川市)

NOTES

fix 修理する
wheelchair 車いす

broken 壊れた

Asian アジアの

in fact 実は
play a role 役割を果たす
movement 運動、活動

technical high school 工業高校
hand ~ to ... ~を...に手渡す
directly 直接的に

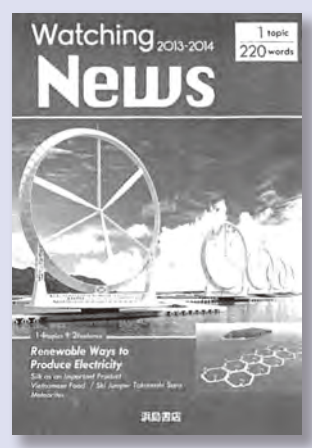
form 作る、形成する
tie 絆

Great East Japan Earthquake 東日本大震災

user 利用者

concerned about ~ ~を心配して

decide to ~ ~する決心をする
damage 損害を与える、破壊する
tsunami 津波



「空飛ぶ車いす」が
ウォッチング・ニュースに掲載されました。
(高校生のための英語副読本)

担当としての25年はあっという間でした 福祉施設の皆様に感銘を受け続けています

—宇都宮エリア 宇都宮第二支部 櫻井ライフプラン・コンサルタント(LC)の声より—



櫻井 雪枝 LC

施設長の語る夢への想いに深く感動した出会い

「一学校卒業後の就職先がなかなか見つからない一障がいを持った方にとって直面するこの問題を少しでも解決したい。

そんな世の中にしていきたい、それが私たちの夢です。」揺るぎない信念を穏やかに熱く語って下さる施設長に出会ったのは、もう25年前という。櫻井LCはジブラルタ生命(当時は協栄生命)に入社してすぐに、日社済担当として活動を始めた。その中で平成21年に開所した知的障がい者、精神障がい者を対象としたグループホーム「より道」と出会った。この「より道」こそあの夢を語られた施設長の施設であ



櫻井LC(前列右から2人目)と「より道」の職員の皆様

る。24時間のサポート体制を備えた施設では、皆様ひとりひとりが使命感を持って従事されていて、皆様の忙しいご様子に担当者として、お声かけするのも躊躇したという。皆様の邪魔にならないのか、自分に何ができるのか自問自答する日々もあったが、責任ある仕事をされている皆様にこそ、自分がサポートできることをきちんとお伝えしなくてはならない。日社済担当者としての使命を果たそうと櫻井LCが真摯にご訪問を続けられたのも、この施設長の夢の話に感銘を受けたことが大きかった。

人生には「より道」があっという間 そして私たちはいつまでも学び続けることができる

「単なる生命保険会社の社員として、訪問を続けていたら今のような信頼関係を築けなかったかもしれません」櫻井LCがそう答える背景には、生命保険会社の営業担当としてだけでなく、日社済の担当者として、ご訪問していたことに起因する。日社済では社会福祉施設の皆様に貢献するために、助成事業をはじめ様々な活動をしている。社会福祉施設を応援する日社済の担当者として、その思いを伝え続けたことが、今の信頼関係に至った大きな理由かもしれない。今では新年会から始まり、夏祭りや忘年会への招待状が届く関係になった。

担当になって長い年月を経る中で、施設長が語られた夢は現実となった。グループホームとして家事支援や介護支援、さらに施設から通える距離に、障がいを持った方が就労できる施設を立ち上げた。今ではグループホームだけでも四棟あり、さらに四月からは地域相談支援事業が開始している。障がいを持った方が「普通に暮らしたい」という思いを叶える

には、地域の中でいろいろな人と交流を持ちながら暮らすことだと考え実践している施設だからこそ、地域に溶け込んだ福祉施設として親しまれている。

さらに、施設職員への教育にも熱心であり、皆で成長していこうという高い志がある。変わりゆく社会の中で惰性になることなく、金融知識や税務知識等を学び続けている櫻井LCにとっても、深く共感するものがあつた。皆様が安心して仕事に打ち込めるよう、万が一の保障や退職後の生活を「福祉の共済」の保険商品でサポートすることに、担当者としての使命感を改めて感じているという。

「人生はより道があつたっていい」という想いで名付けられたこの施設。まだまだ成長し続ける皆様とともに、これからもパートナーとして精進し、少しでもお役に立てるよう尽力したいという櫻井LCの想いが印象的であつた。

“As safe as the Rock”

～ジブラルタ・ロックのように安心～

ジブラルタ海峡に位置する長さ 4.8km、高さ 400m にもおよぶ巨大な岩山ジブラルタ・ロック、が社名の由来です。親会社プルデンシャル・ファイナンシャルのシンボルであるジブラルタ・ロックは、時を経ても変わることのない強さ、安定性、専門性、そして革新性を象徴しています。

コールセンター

0120-37-2269

受付時間 平日 8:30~20:00 土曜 9:00~17:00
(日曜・祝日・12/31~1/3 を除く)

ホームページ

<http://www.gib-life.co.jp>



Gibraltar
ジブラルタ生命

「公益財団法人 日本社会福祉弘済会」はジブラルタ生命と提携し「福祉の共済」を推進しています。

介護福祉士
Challenge
CHALLENGE THE CARE WORKER

みんなで合格!

働きながら

チャレンジ

国家資格に挑戦する

あなたを応援します! !



本試験と同様形式です。(マークシート付)

「チャレンジ!! 介護福祉士」国家試験 模擬問題セット

3回分

120問と正答がわかりやすい解説と一緒に掲載されています。

※第25回過去問題解説集付 定価4,000円(送料込)

マークシートで自己採点や繰り返し学習に最適です。(〈照会先〉「チャレンジ!! 介護福祉士」事務局 (公財)日本社会福祉弘済会 TEL.03-3846-2172

社会福祉法人 岩手県社会福祉協議会
社会福祉法人 山梨県社会福祉協議会

社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

社会福祉法人 福島県社会福祉協議会
社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会

公益財団法人 日本社会福祉弘済会

<http://www.nisshasai.jp>